

学校でのスポーツ観戦による小中学生の感動体験創出のプロセス

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119019
氏名：小溝 拓

【目的】

スポーツ観戦による感動喚起のプロセスを構造化し、日本フェンシング協会の観戦体験が小中学生のフェンシング再観戦意図に与える影響を検証することである。また、感動が喚起された要素を明らかにし、学校でスポーツを「みる」体験の経験価値を高めるための在り方を提案することである。

【方法】

日本フェンシング協会の学校訪問イベントを体験した3校の小学6年生から中学2年生計372名に、イベント直後に質問紙調査を実施した。分析には、SEMによる多母集団分析と、自由記述コメントに対するSTAR分析を用いた。

【結果】

SEMの結果、押見・原田（2013）の顧客感動・満足モデルが小中学生に対しても適用できることが初めて明らかとなった。期待との一致あるいは期待を上回る体験が感情を高ぶらせ、感動や満足を引き起こし、再観戦意図を高めるという同モデルが示す一連の感情の変化が認められた。STAR分析の結果、イベントには7つの感動事象があり、感動の対象をパーソナリティ別でまとめると4つの傾向があることが明らかとなった。

【結論】

イベントで小中学生に喚起された感動は“delight”に近い感情であり、驚きを伴った感動と満足感を伴った感動の2つのパターンの感動喚起があることが明らかとなった。イベントに対する小中学生の関与を活性化する3つの仕掛け（1. 知識の提供、2. 積極的な応援、3. MCの盛り上げによる熱狂的な雰囲気創出）によって、感動が意図的に増幅させられていたことが明らかとなった。